

令和7年度（2025年度）公共事業再評価調書

（様式3）

【大規模増額等地區】

				基準年月日		令和7年8月1日				
調書番号	07-05		所 管 部	水産林務部		作成責任者	水産局漁港漁場課長 梅津 健夫			
				担当係	事業係（内）28-324					
Ⅰ 基本事項（基準日時点）										
事業種別		漁港海岸保全事業費（海岸メンテナンス事業）								
ふりがな 地区名	ふるひろ 古平		市町村名	古平町		総事業費	3,253 百万円			
	国	55%	道	45%						
	1,789 百万円		1,464 百万円		百万円	百万円				
事業目的・目標	●古平漁港海岸は古平漁港の北側に位置し、当地区の海岸保全施設は、昭和40年代に築造され50年ほど経過しており、施設の老朽化が著しい状況である。また、高波浪時には施設からの越波が生じていることから、護岸の改良を行い、施設の老朽化対策と越波対策を講じるものである。									
	【アウトカム】 等 ●浸水面積 3.3ha→0ha ●浸水する恐れのある家屋等及び人口 16戸→0戸 53人→0人									
事業概要	海岸保全施設の老朽化が激しいL=276.8mの区間について、老朽化対策及び越波対策として、護岸の嵩上げ改良整備を行うものである。	工事費内訳	計画延長 L=276.8m 護岸（改良） L=276.8m 測量設計費 1式 用地費及び補償費 1式		(百万円) 前回評価 1,700	(百万円) 今回評価 2,488	(百万円) 増減額 788			
					399 764 365	1 1 0				
計					2,100	3,253	1,153			
総合計画での位置付け	総合計画の体系	基本方向	政策の柱	政策の方向性	施策名					
		潜在力発揮による成長	(1)食【目標】国内外から求められる魅力的で質の高い食を持続的に生産する北海道	持続可能な水産業と活気あふれる漁村づくり	漁村の活性化					
特定分野別計画等での位置づけ	施策目標・方針	【計画名：北海道強靱化計画 P29】 （海岸保全施設等の整備） 海岸保全施設の整備については、関係機関との連携のもとで、海岸堤防などの施設整備を計画的に行うとともに、個別施設ごとの長寿命化計画等に基づく老朽化対策や施設の維持管理を適切に実施する。								
	関連する指標	-								
Ⅱ 公共事業評価経過										
事業経過	事業採択	着手	評価年度	完了予定	経過年数	総事業費(a)	道負担額	当該年度事業費	累計事業費(b)	進捗率(b)/(a)
	事前評価又は当初	H31(2019)	H31(2019)	H35(2023)		980	441			
	前回再評価	H31(2019)	H31(2019)	R2(2020) R10(2028)		2,100	945			
	今回評価			R7(2025) R19(2037)		6	3,253	1,464	90	1,069
変更理由・内容(概要)		(1)資材単価及び労務費の上昇による事業費の増 (2)資材仮置き場新設による事業費の増 (3)施工機械の運搬距離増大による事業費の増 (4)家屋調査、騒音振動調査等の事業期間の延伸による事業費の増 (5)残事業の施工期間を精査したことによる事業期間の延伸								
Ⅲ 事業採択前の状況										
1.事業採択に至る経過と背景	●老朽化調査 H29年（2017年）9月：健全度評価 A（措置段階） ●施設被害状況 S57年（1982年）2月：高潮越波により背後家屋が被水 H27年（2015年）10月：低気圧に伴う高潮により背後家屋が床下浸水 H29年（2017年）10月：高潮越波により背後家屋が被水									
2.事業検討の手続（住民ニーズの把握等）	●S34年（1959年）2月 海岸保全区域指定（告示番号：第 265号、告示年月日：S34年（1959年）2月26日） ●S51年（1976年）6月 海岸保全区域変更（告示番号：第2024号、告示年月日：S51年（1976年）6月2日） ●H29年（2017年）8月 古平町より古平漁港海岸保全施設整備要望。 ●H31年（2019年）5月 事業採択									
3.事業効果を及ぼす地域・対象	●防護面積 3.3ha ●防護人口 53人 ●防護家屋 10棟 ●防護事業所 6棟									
4.関連する事業	事業名	事業主体	事業期間	事業費(百万円)	事業内容					

Ⅳ 事業の実施状況																
1.進捗状況	(1) 事業実績及び今後の計画															
	施工(工種)区分	工事内容	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	～	R19	進捗状況	事業費(百万円)	
	護岸(改良)	L=276.8m			←		L=92.0m			×	-----	L=184.8m	----->	36%	2,488	
	測量設計費	測量・調査・設計	←							×	-----			24%	764	
	用地費及補償費	用地買収・物件補償			←→									100%	1	
		(2) 進捗状況														
護岸92mがR7までに整備完了予定。事業全体はR19完了予定。 今後の事業進捗にあたっては、特に大きな支障はなく、事業期間の延伸後は予定どおり完了する見込み。																
b		a：概ね予定どおり実施している。 b：事業計画・期間等を変更し実施する。 c：問題が生じ、実施に支障をきたしている。														
2.事業効果	経済効果の内訳(百万円)		費用の内訳(百万円)				備考									
	項目	R7現在	項目	R7現在												
	浸水防護便益	7,321	事業費	2,651	●「海岸事業の費用便益分析指針(改訂版)(農林水産省・国土交通省)H16.6(R6.2一部更新)」に基づき算出。											
			維持管理費	198	●効果及び費用はR7(2025)に現在価値化し、「整備期間+完了後50年間」で算出。											
					●費用は、現在価値化及び50年間の維持管理費の計上によるため、総事業費と異なる。											
	合計(B)	7,321	合計(C)	2,849												
	B/C (R7現在)	B-C	前回算定年度：R2年度(2020年度)【再評価】													
		4,472	前回算定時B/C：4.59(合計B)：8,188百万円 合計(C)：1,784百万円)													
		経済的内部収益率	変更理由 ・事業費の増額に伴う費用の増加 ・完了予定年度の延伸に伴う効果及び維持管理費の増大 ・市町村データ等の原単位更新、家屋数・事業所数等の更新													
2.57	8.25%															
3.コスト縮減などの取組	取組の項目		取組内容											縮減額(百万円)		
	代替案の比較		計画構想段階で代替案(上部式工法)を比較。最安価となる現工法を採用。											238		
Ⅴ 評価																
1.必要性	●本事業は、海岸保全施設背後にある民家などを高潮による浸水被害から防護するため、老朽化対策や越波対策を講じるもの。 ●事業の必要性に変化はなく、着実に事業の推進を図る必要がある。															
	a	a：事業の必要性に変化はなく予定どおり事業を推進する。 b：着工後の状況変化により事業計画の変更が必要である。 c：着工後の状況変化により事業推進の是非を判断する必要がある。														
2.事業を推進する上での課題	(1) 環境上の配慮及び課題															
	●周辺は汀線の変化が少なく、海浜は安定しているため、当該事業による海岸侵食への影響はない。 ●護岸前面の減塩環境に配慮した施設配置計画としている。 ●施工箇所に住家が近接するため、工事による騒音・振動の抑制に配慮し工事を実施することとしている。															
	(2) 事業推進に対する住民の動向															
●高波浪時の越波や津波に伴う施設倒壊の不安があるため、地元住民より早期完成を強く要望されている。 また、毎年度海岸保全施設の整備について、町から道に要望がある。																
(3) その他の課題																
●特になし																
3.事業達成の見込み	●事業の必要性に変化はない。また、事業費は大幅に増加しているものの、予定年度での事業達成が見込まれる。															
	a	a：現時点では事業の進捗に影響する課題はなく、達成が見込まれる。 b：課題はあるものの達成は可能である。 c：大きな課題があり達成には相当の困難が予想される。														
4.対処方針	●事業の必要性に変化はなく、地元からの早期完成要望もあり、令和19年度の完成を目指し、事業継続する。															
	a	a：継続 b：終了 c：休止 d：中止														
事業期間変更の有無		有		事業内容変更の有無		無		総事業費変更の有無		有						

事業概要図

古平漁港海岸 海岸メンテナンス事業

【事業の目標・目的・効果】

古平漁港海岸は古平漁港の北側に位置し、当地区の海岸保全施設は、昭和40年代に築造され50年ほど経過しており、施設の老朽化が著しい状況である。また、高波浪時には施設からの越波が生じていることから、護岸の改良を行い、施設の老朽化対策と越波対策を講じるものである。



◆古平漁港海岸

- 事業種別 漁港海岸保全事業費（海岸堤防等老朽化対策事業）：平成31年(2019年)～令和3年(2021年)
漁港海岸保全事業費（海岸メンテナンス事業）：令和4年(2022年)～
- 事業期間 平成31(2019)年～令和19(2037)年
- 総事業費 32.53億円
- 事業内容 護岸（改良）L=276.8m
- 事業効果 防護区間：276.8m、防護面積：3.3ha、防護人口：53人
家屋：10棟、事業所：6棟

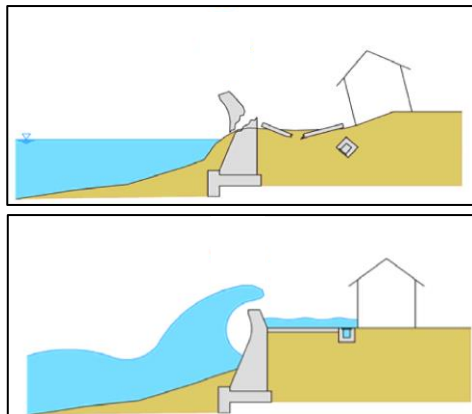
【老朽化状況・越波状況】

- ・既設護岸の老朽化が確認され、高潮時には越波が生じている。

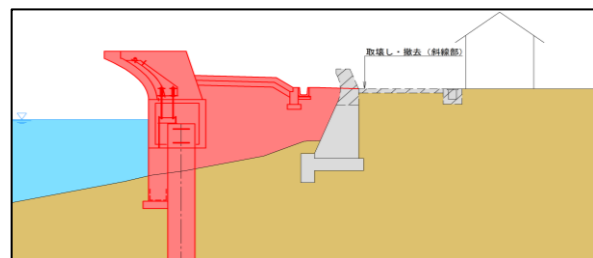


【事業の必要性】

- ・整備前：施設の老朽化が著しい状況である。
また、高波浪時には施設からの越波が生じている。
- ・整備後：護岸嵩上げ改良整備による、老朽化対策及び越波対策が図られ、高潮等による越波から背後地を防護する。



対策後



【断面図】

(前回評価)

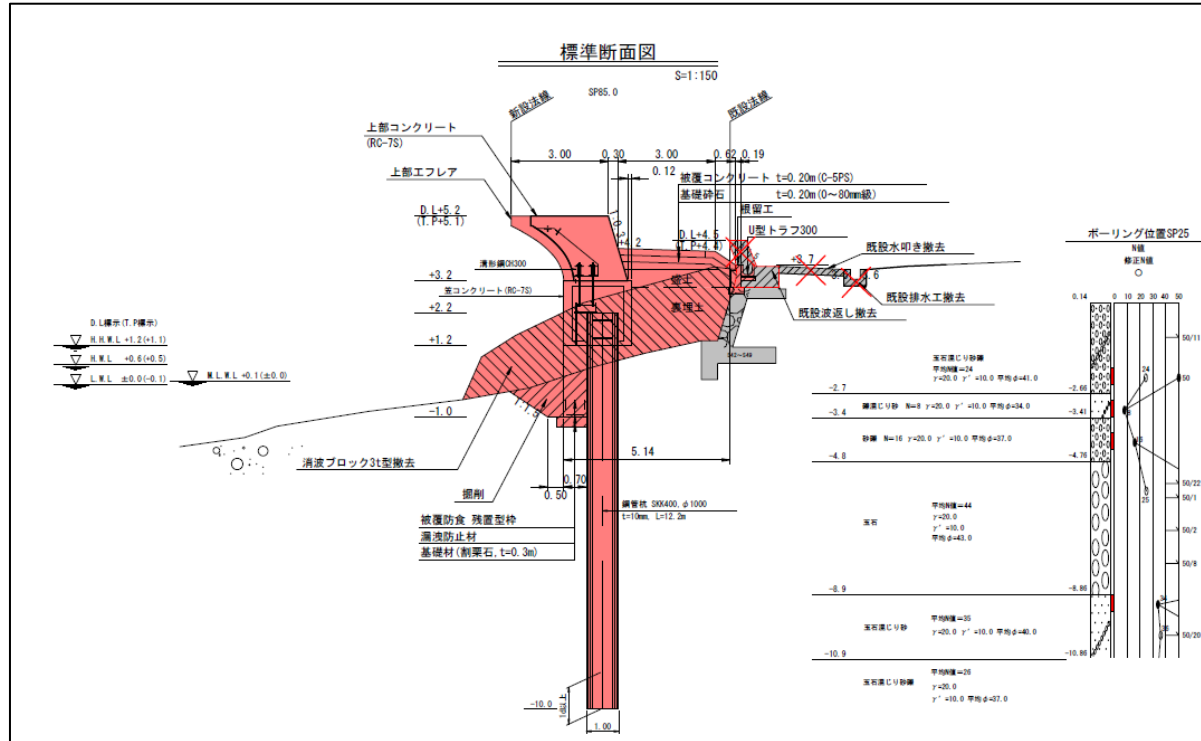
計画事業費：21.00億円

事業期間：H31(2019)～R10(2028)

(今回評価)

計画事業費：32.53億円

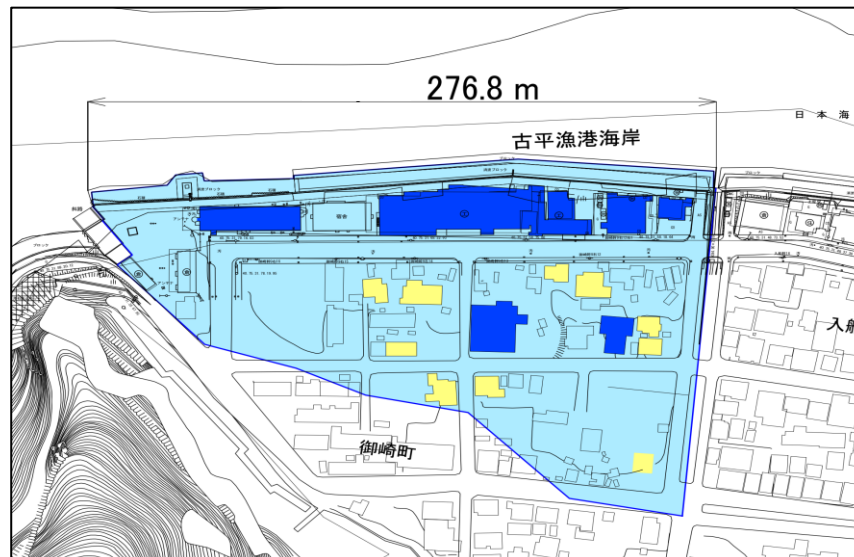
事業期間 H31(2019)～R19(2037)



【変更理由・内容】

- (1) 資材単価及び労務費の上昇による事業費の増
- (2) 資材仮置き場新設による事業費の増
- (3) 施工機械の運搬距離増大による事業費の増
- (4) 家屋調査、騒音振動調査等の事業期間の延伸による事業費の増
- (5) 残事業の施工期間を精査したことによる事業期間の延伸

【海岸メンテナンス事業における受益区域】



【凡例】

- : 家屋
- : 事業所
- : 浸水域

アウトカム			
防護面積 (ha)	防護人口 (人)	家屋 (棟)	事業所 (棟)
3.3	53	10	6

事業効果			
経済効果の内訳 (百万円)		費用の内訳 (百万円)	
浸水防護便益	7,321	事業費	2,651
-	-	維持管理費	198
合計 (B)	7,321	合計 (C)	2,849
		B/C	
		2.57	